

勘定山



白髪山を最高点に物部川本流と上蓮生川に挟まれて大橋まで続く稜線のほぼ中央部に位置する勘定山~井地山。奥深くかつ急峻な地形のため頂稜部は人手が加わることほとんどなく、原始的な様相をとどめたブナを主体とした天然林が残っている。ツツクグウンはあるものの、なだらかな広い稜線とは人の踏み踏むほとんどなく、とても静かな時が流れる。北側は細附森~三箇が木の間に見え、南側は各々麓の山並みが続く。さらに西には大磯の平から高度を下げながら大橋まで長い尾根が伸びている。

半世紀以上の昔、奈蔵山の木は高井に向けて架線と張り、材を搬出していった。

平家の岩屋の上にはマンガン鉱山があり、4~5年にわたってマンガンを探掘していた。太いワイヤーを張って中継の「駅」では人が荷を掛け替えて岡の内まで4本も5本も架線を張り、搬出していた。今でも山中にワイヤーが残されていた。

昭和の終わりに平家の初めまで岡の内担当の主任としていた中山篤道さんによると、その頃、ケヤキで代わりのハコブサノミを採集した歴史がある。この採集と、この採集に從事していた。

木の森にはたくさんの動物が生まれている。無数の落ち葉は豊かな腐葉土となり、虫は動物や虫たちの食糧になる。あらゆる命がブナによって支えられている。

ほとんど手つかずの自然林の広い尾根にはブナをはじめ立派な大樹やかわいい雑樹まで多様な森の姿を見せてくれる。訪れた4月初旬、樹々たちはかじかみ、凍える冬を耐え、冬を越し、そして季節の約束は今、めどりて春のふくよかな風にゆれていた。

勘定山は「カンジャが森」と呼ばれ、久保と別役の境にあり、遠く山田、香北より望み見ることのできる高山で、冬ともみれば白く雪をかぶり高くそびえて良く見える。この森に登るには久保沼井、別役の津久呂、セジロの三つの道がある。カンジャが森は広く広葉樹が生い、果ては余程地の利に詳しい人でなければ元の所に戻れないといわれている。山中に天狗岩と呼ばれる大岩があり、その上には落葉一つもない天狗の遊ば場あり。大岩の天辺から百屋の垣田まで天狗が往復していたという。「ふるさと一人旅」より

下から見上げる勘定山はいつも遠かった。冠岩? ヒト想後してしお。

令和4年4月岡の内西谷において平家の岩屋でみられる箕さねに出会う。平家の岩屋のある方向を指示して、わしの先祖は800年前、どこかうづや、7来りか知らんがみせで暮らして、ここに下りてきた」とのこと。代々西谷の地で営みと続けている。平家の岩屋へのルートや昔の暮らしを淡々と話してくれた。

昔、学校を出たばかりの若い頃、この上(西谷)の上の飯場で泊まり仕事をしていた。布団が銅管から、何か何まで「担ぎ」上げていた。えらいもんだ。安芸の人の持ち山だから、スツクを刈って地を植えて山に植えていた。食べ物は米、みそ、じゃ、生話など。谷のそばで水のあるところ、飯場がいろいろ若からたので「かまき」もやりよた。4.5人で泊まり仕事をしていた。若からたのでできた仕事だった。

山行デー9
2022.4.8
18.9km
10:22
最低350最高1,465 夏至



至大橋
人工林
飯場跡
横道
注道はなし
深谷
不動堂
鎖場
渡渉黒タンク
西谷の道と合流
平家の岩屋標識(古)

平家の岩屋
マンガン探掘跡
搬出のワイヤー残る
手つかずの天然林
立治元年(1185)源平の戦に敗れ平資盛(清盛の孫)一行が隠れ住んだといわれる。柱は石灰岩壁の下にあり、岩屋は石壁に埋まりつつある。落石が多く登っていくと石が降ってくるような場所だ。岩屋の中には大鼓の残骸が散らばっていた。昔は「名谷の岩屋」と呼ばれていた。岩屋の周りにヒトリズカが群生していた。ヒトリズカの名称の由来は平家も深(深義経)が登った静御前が吉野の山で下った一人で雲を踏み登るともいわれる。今は平家の原山(ひらやま)平和な日本だと位にた(登る)おかしな花だ。

別役
平家の岩屋へ行く道だけでなく山道は今も行く人少なくなるといふ。昔は毎日人が通り、道も光り見下ろ。道が通っているスギの山も昔はリンノウ(ツツク)を植えていた。今でも山の中に入ったらリンノウがとどろき生えている。スギはもともと西谷にいた。木ではなく元からあつて生えている木はスギヤヒキで昔は広く広葉樹やモミ、ツツクなどが昔から地元にある木よ。

大正時代に森林軌道が敷設され別府から山崎まで木材が搬出されていた。別府-岡の内は物部川左岸を通っていた。江戸時代は別役村1889年に不真山村1956年物部別役になる。古くは大忍郷

至別府
山行デー9
2022.4.8
18.9km
10:22
最低350最高1,465 夏至